

II 社会貢献・地域連携推進事業

対人援助看護きんさいカフェ呉-「認知症カフェ」の活動

看護総合研究センター運営委員

棚崎由紀子 前信由美 岩本由美 進藤美樹

実行委員

田村和恵 今坂鈴江 高橋登志恵 平岡正史

塩田愛子 空本恵美 古屋敷智恵美 山内京子

2020年より呉市来てくれサロン事業として、広島文化学園大学看護学部（阿賀キャンパス）周辺の阿賀・広地区等に在住の高齢者を対象にした認知症カフェ（きんさいカフェ呉）を運営している。

今年度は、2022年4月に呉市と委託契約締結し、新型コロナウイルス感染症（COVID19）の感染拡大の影響を受けつつも、感染予防対策を講じながら老年看護学領域、成人看護学領域の講義科目と協同して、介護・認知症予防、世代間交流を主体とした年6回のきんさいカフェ呉（認知症カフェ）を開催した。

また、きんさいカフェ呉の登録者74名に対して最新の健康情報、季節柄気を付けたい症状等の様々な情報発信（予防対策、脳トレ、体操、レシピなど）をニュースレターとして、あがりんさい便りを今年度より季刊発刊（3回便りを郵送）した。以下に、それぞれの活動の詳細について述べる。

1. きんさいカフェ呉（認知症カフェ）

今年度も昨年に引き続き COVID19 の感染拡大の影響を受け、カフェの開催が危ぶまれたが、阿賀キャンパス内のカフェに限定し、開催することに至った。下記に、6階のカフェの詳細について報告する。

前期は、2回にわたり6月7日（参加者30名）、7月15日（参加者20名）に老年看護学概論の科目履修生である2年生が、明治・大正・昭和・平成の各時代の出来事、教育、娯楽などについて学習した成果をカフェで発表した。参加された高齢者にどんぐりの実を準備していただき、童心にかえってコマを作成、幼少時代の体験談を聞かせていただきながら、みんなでコマ回しの体験を行った。

参加者の方々から、終了後、発表内容、発表資料（配布資料）、学生の対応、カフェの満足度について、「大変良い」の4点から「悪い・不満」の1点の4件法で評価していただいた。初回の6月は発表内容：3.15±0.59点、発表資料（配布資料）：3.44±0.57点、学生の対応：3.44±0.57点、カフェの満足度：3.26±0.58点の高評価であった。



どんぐりのコマを回しています



自由記述では、「明治、大正、昭和、戦後の食事・遊びについて考えたことなく、教室ことができ良かったです。昭和後半はそうだったと子供の頃、若い頃のことを思い出しました。」「学生さんたちとコマ回しができて楽しかったです。若い人のエネルギーをいただきました。」「懐かしく聞かせてもらった。こういう機会は少ないので、学生の方との触れ合いが楽しい。」「一方的に発表を聞くだけだできれば、高齢者とのグループトークも取り入れてほしい。高齢者が体験したことを若い人に伝えることも重要です。」「参加型も嬉しい。高齢者と呼ばれるようになったことに戸惑いを感じますが、学生の方たちともっと楽しみたい。」との声をいただいた。



後期は、10月20日（参加者34名）、11月17日（参加者14名）の2回にわたり、年に1回の健康測定（骨密度、認知機能、血圧測定、認知機能、体組成など）を成人看護学概論の科目履修生である1年生とともに実施した。

初めてカフェに参加した1年生は、かなり緊張していたが、参加者の皆さんから声をかけていただき、時間の経過とともに打ち解けて、一緒にカフェを楽しむことができていた。

在宅で生活されている高齢者の理解にもつながる、貴重な体験であった。

また、1回目の健康チェックで待ち時間が長かったことから、待ち時間で体験できるようにAED、BLS（一時救命処置）の講習や4年生の保健師コース生による災害対策の健康教室を行った。保健師活動である健康教育をカフェの参加者を対象に実践させていただき、学生たちは多くの学びを得ることができた。

参加者から、終了後、健康チェック、写真の展示、教員の対応、学生の対応について、「大変良い」の4点から「悪い・不満」の1点の4件法で評価していただいたところ、健康チェック：3.53±0.57点、写真の展示：3.50±0.51点、教員の対応：3.63±0.55点、学生の対応：3.31±0.64点と高評価であり、自由記述では、「骨密度は測ることが無かったのですが、今回測ってもらって年より少し良かったので次はもっと良くなるように頑張ってみます。」「他に仕事がない中、こうして近隣住民に声をかけていただけるのはとても嬉しいことです。今後とも継続のほどよろしくお願いいたします。」「百戦錬磨の私たち（老人）めげずにこれからもカフェを続けてくださいね。」との声があった。



保健師コースの4年生が防災に対する健康教室を行いました



骨密度を測定中



学生が血圧を測定しています

第5回12月16日（金）は、老年看護援助論Ⅰの科目履修生である2年生が企画して、クリスマス会（参加者：30名）を行った。

参加者の皆さんに少しでもクリスマスの雰囲気を感じ、楽しんでいただけるようにと学生たちは何日も前から内容の企画や講義室の飾りつけなど、カフェの準備をしてきた。当日は、サンタの衣装で登場されたプラチナクラブの皆さんと一緒に、学生とハンドベルによる合奏を行い、参加者もカフェに花を添えてくださった。また、学生が企画し、参加者と一緒に取り組んだ紙コップで簡単に作成できるサンタやトナカイの飾りづくりも好評

であった。さらに、呉市立呉高等学校の生徒たちがサプライズで歌を披露してくれるなど、参加者とともに皆で盛り上ったカフェとなった。

参加者から、終了後にクリスマスの内容、進行、雰囲気、学生の対応、教員の対応、クリスマス会の満足度について、「大変良い」の4点から「悪い・不満」の1点の4件法で評価していただいたところ、クリスマスの内容：3.83±0.39点、進行：3.78±0.42点、雰囲気：3.86±0.35点、学生の対応：3.87±0.34点、教員の対応：3.74±0.45点、クリスマス会の満足度：3.74±0.45点と高評価でした。

自由記述では、「楽しく過ごしました。若人との話も楽しかったです。ありがとうございました。」「盛りだくさんの企画で準備も大変だった事でしょう。楽しく過ごさせていいただきました。」「我々高齢者にとって孫に相当する学生と一緒に過ごさせていただくカリキュラムを作成され有難かった。サプライズの内容も大変良かった。まさか市呉の生徒たちに会えると思いませんでした。」等の声が寄せられました。



呉市立呉高等学校の皆さんが
歌を披露してくれました



学生とハンドベルの合奏





サンタとトナカイの飾りを作成しました

今年度最後のカフェは、1月13日（金）から老年看護援助論Ⅰの科目履修生である2年生が企画して、新年会（参加者7名）を行った。

年始に COVID19 の感染者数が急増し、カフェの開催が危ぶまれたが、感染対策を強化し、実施することができた。残念ながら、当日、雨で参加者数が少なかったが、認知症予防の体操、門松の折り紙、男女対抗のカルタ大会を行い、楽しまれた。

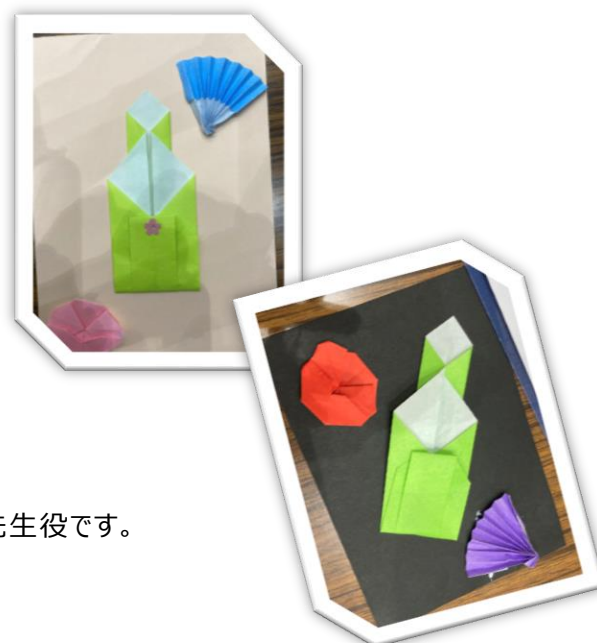


みんなで転倒予防の体操をしています





男性チームと女性チームに分かれてカルタ大会をしました。皆さん真剣です



新年会らしくお正月にふさわしい門松の飾りを
作成しました。学生が先生役です。

2. ニュースレター「あがりんさいより」発行

今年度は、学生の近況報告、最新の健康情報や脳トレ、高齢者の心がけてほしいレシピ、認知症カフェの予定などを記載したニュースレターを4回発刊する予定であった。しかし、活動開始時期の遅れに伴い、7月末、11月末、2月末の3回にとどまった。



3. 今年度のきんさいカフェ呉（認知症カフェ）の活動を振り返り

今年度の看護総合研究センターの活動事業であるきんさいカフェ呉の活動を振り返る。これまでと同様に、参加者は大学生との世代間交流を心待ちにしており、またアンケート結果からもその企画に対する期待や満足度も高いことが明らかとなった。

現在、成人看護学、高齢者看護学領域の講義科目と抱き合わせで、カフェを開催している。本学は様々な活動への学生参画を重視していることから、主体的に取り組む力を養う意味において、学生主体でカフェを企画・運営する意義は大きい。また在宅生活を送っている様々な高齢者と関わることで、実習においても高齢者の理解のしやすさ、コミュニケーションスキルの強化にもつながっている。

しかし、今後は参加者の高年齢化に伴い安全にカフェが維持できること、また看護総合研究センターの活動事業として、研究的視座でカフェの効果を検証できるなど検討していきたいと考える。